

『発掘 宇治 '13』

平成25年度 発掘調査・文化財速報



発掘ものがたり宇治'13 (3月~6月)



大幣神事 (6月)



浄妙寺跡発掘調査 (5月~7月)



百味の御食 (10月)



史跡宇治川太閤堤跡発掘調査 (8月~12月)



史跡宇治川太閤堤跡発掘調査 (8月~12月)



史跡宇治川太閤堤跡保存整備フォーラム (10月)



庵寺山古墳公開 (11月)

宇治市歴史まちづくり推進課

～浄妙寺～ 藤原氏 とむらいの寺

浄妙寺とは

貴族文化が栄えた平安時代に栄華を極めた藤原道長ふじわらのみちながによって、木幡の地に建てられた寺が浄妙寺です。木幡は古くから一族の墓所となっていた藤原氏ゆかりの地で、道長はこの寺を建てることに大きな意欲を持っていたようです。寺の造営には当時の各分野を代表する人物が多く関わり、その完成は華やかに祝われました。寺の正確な場所は長い間わからないままでしたが、木幡小学校を建設する際の発掘調査で寺の主要建物である法華三昧堂ほっけざんまいどうの一部が発見され、この場所に浄妙寺があったことがわかりました。

法華三昧堂と多宝塔が並ぶ創建当時の浄妙寺（イメージ図）



浄妙寺の場所

浄妙寺を建てる場所の選定には、陰陽師の安倍晴明あべのせいめいなどがあたっています。道長の日記である『御堂関白記』みどうかんぱくきには「木幡三昧堂可立所為定、到彼山辺、従鳥居北方河出、其北方有平所、道東、晴明朝臣、光榮朝臣等定也」とあり、寺を建てる場所は、鳥居の北を流れる河の、さらに北にある平地に決めたことがわかります。文中の河は旧堂の川、鳥居は、当時は五ヶ庄柳山にあった許波多神社の旧地にあたると考えられます。道長は、浄妙寺に対する思い入れが強く、場所が定められてからも頻繁にこの地を訪れ造営の進み具合を確かめていたようです。



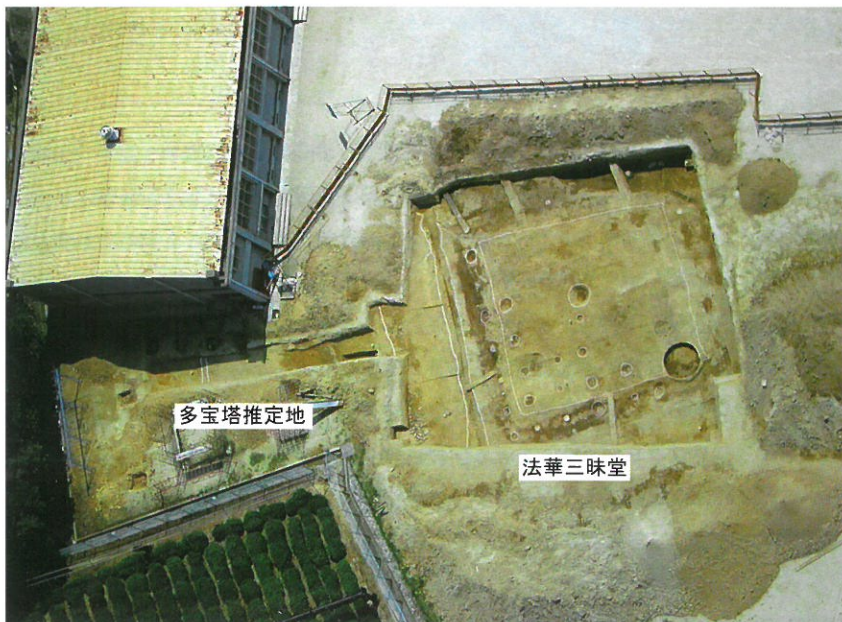
←浄妙寺の位置と周辺地形
(図中の●は宇治陵)

法華三昧堂の発掘調査

平成2年度には、法華三昧堂の基壇と、堂の縁を支える石の一部や建物の礎石の痕跡が見つかり、およそ16m四方の堂であったことがわかりました。また、堂の東側にも建物があつた痕跡があり、これは文献にも書かれている多宝塔（上絵の右側の建物）と考えられます。その他に、浄妙寺は何度か火災にあつていること等がわかりました。

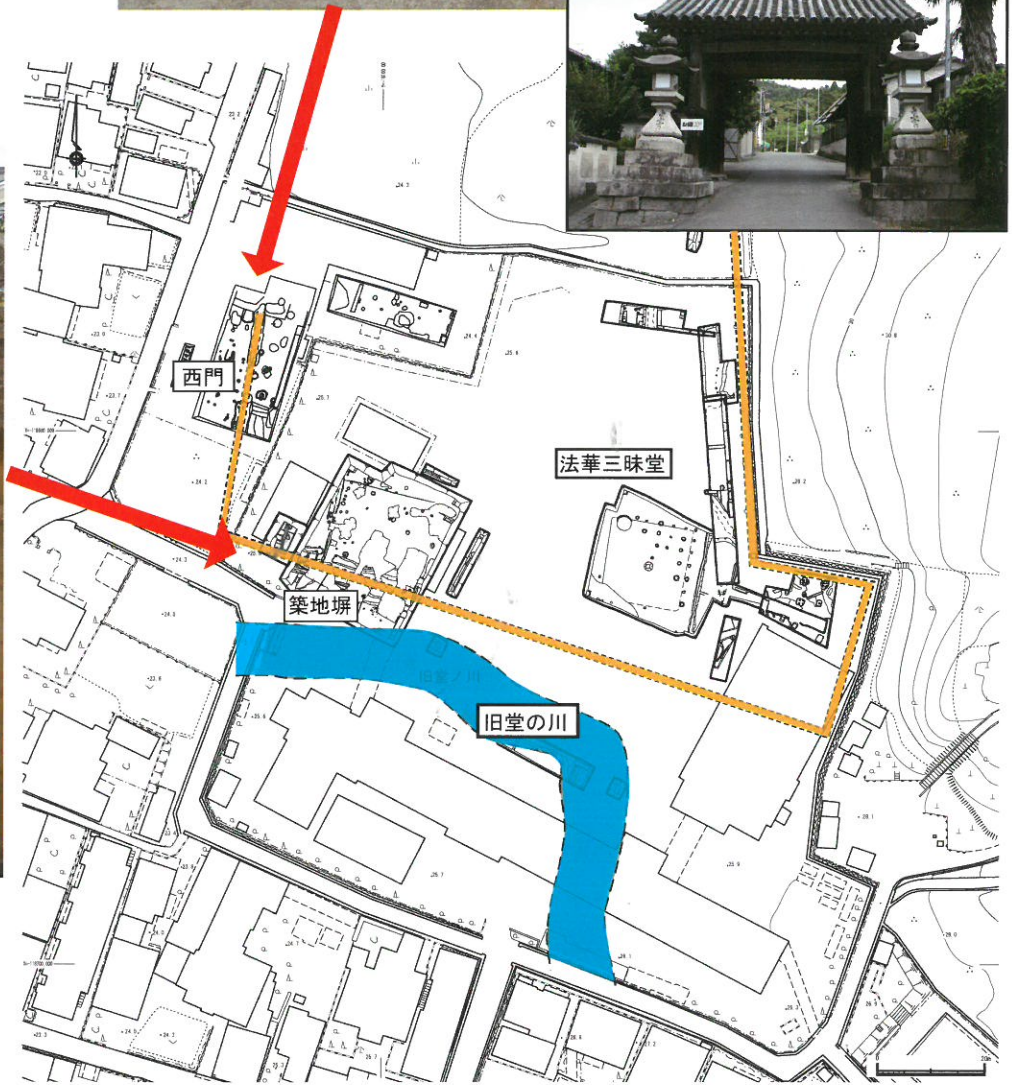


堂の縁を支えていた石→



近年の発掘調査成果

近年の調査では、平成21年に寺の南側を囲っていた築地塀^{ついでい}、今年度の調査では西門が発掘されました。西門は白川金色院の旧惣門とほぼ同じ大きさだったようです。寺が北と東にどれほど広がるかはまだわかりませんが、これまでの調査成果や地形から、寺の広さは木幡小学校の敷地を中心に、北に少し広がった程度ではないかと考えられます。



浄妙寺の終焉

藤原道長の時代より後の浄妙寺については不明なことが多く、いつ頃に寺がなくなったのかもよく分かっていません。室町時代の日記の中に、寺が大規模な土一揆によって放火されたことを書いた記事があり、これが最後に浄妙寺について書かれたものです。おそらく、これ以降は寺として使われることもなく、伝承を残すだけになっていったと考えられます。

Pick UP!! 浄妙寺関連の主なできごと

- 長保6年(1004) 2.19 藤原道長が浄妙寺の建立の場所を視察に行く。
- 寛弘2年(1005) 10.19 浄妙寺三昧堂が完成し、落慶供養が行われる。
- 寛弘4年(1007) 12.2 浄妙寺多宝塔が供養される。
- 万寿4年(1027) 12.4 藤原道長が法成寺で死去し、7日に遺骨が木幡に納められる。
- 康平5年(1062) 8.29 藤原頼通が父道長の墓参に浄妙寺を訪れる。
- 寛正3年(1462) 10.23 徳政一揆の蜂起により、浄妙寺御堂、木幡執行坊が放火される。(浄妙寺の終焉か)

史跡宇治川太閤堤跡は今！



再現した石積み護岸



再現した石出し

史跡宇治川太閤堤跡では、近世初頭に豊臣秀吉によってつくられた宇治川の護岸施設の一部を再現しました。再現したのは石積み護岸と石出しの一部です。製作には約 500 名の方が参加し、自分の名前やメッセージを書いた石を積みました。また、昔ながらの土木工事の道具にふれたり、ミニチュアの石垣づくりを体験するコーナーを設け、当時の土木工事の大変さや技術の高さを学びました。



石垣づくり体験



昔の土木道具にさわってみよう！



名前を書いて護岸に積もう！



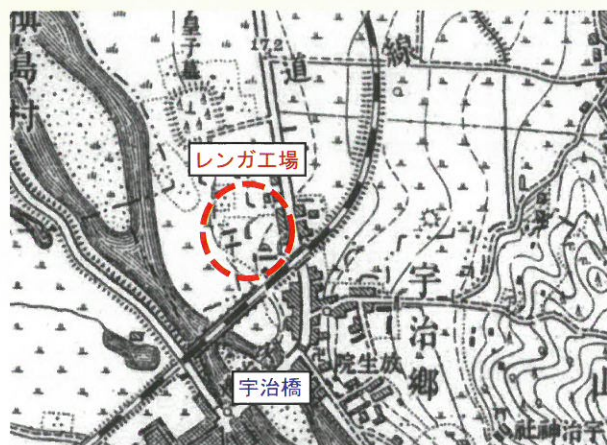
名前を書いて護岸に積もう！

レンガ窯の発掘調査



レンガ積みカマド↑
レンガ窯

史跡宇治川太閤堤跡には、豊臣秀吉が造らせた堤だけでなく、さまざまな時代の遺跡があります。今年度は明治時代のレンガ工場跡を発掘しました。調査では、レンガ窯 1 基とレンガで造られたカマド 1 基・レンガ廃棄場が見つかりました。近代の宇治では、鉄道や軍施設・発電所にレンガが使用され、まちの発展を支えてきました。また、レンガ積みの碾茶炉てんちゃろが発明されるなどお茶のまちならではのレンガ利用もあります。今回は宇治の近代化を考えるうえで重要な調査成果を得ることができました。



明治 4 2 年測量地形図↑